

*Comme si*

*Une insinuation  
au silence*

*simple  
enroulée avec ironie*

*ou  
le mystère*

*précipité*

*hurlé*

# 関西マラルメ研究会

創立 20 周年記念シンポジウム

« RIEN N'AURA EU LIEU QUE LE LIEU »

*C'ÉTAIT*

*issu stellaire*

*LE NOMBRE*

EXISTÂT-IL

autrement qu'hallucination éparse d'agonie

COMMENÇAT-IL ET CESSÂT-IL

sourdant que nié et clos quand apparu

enfin

par quelque profusion répandue en rareté

2023 年 12 月 9 日(土), 10 日(日)

於:神戸大学文学部

A 棟一階 学生ホール(A119)

主催：関西マラルメ研究会

協力：フランス抒情詩研究会

## 第1日(12月9日)

【午前】10:30~12:00

### ◆はじめに

坂巻康司「関西マラルメ研究会の20年」

### ◆マラルメ I : マラルメ研究の現在

司会 中畑寛之

1. 坂巻康司(東北大学)
2. 宮寄克裕(同志社大学)

【午後 I】13:00~14:45

### ◆同時代人たち I : ボードレールからの視点

司会 中山慎太郎

3. 佐々木稔(愛知学院大学)
4. 小倉康寛(大阪大学)
5. 廣田大地(神戸大学)

【午後 II】15:00~17:15

### ◆同時代人たち II :

バンヴィル、ランボー、レミ・ド・グールモン、  
モーパッサンからの視点

司会 廣田大地

6. 五味田泰(北星学園大学)
7. 中尾充良(愛知大学)
8. 合田陽祐(山形大学)
9. 足立和彦(名城大学、パリから遠隔参加)

## 第2日(12月10日)

【午前】10:30~12:15

### ◆マラルメ II : 現代思想の中のマラルメ (ランシエール、バディウ、メイヤスー)

司会 森本淳生

1. 鈴木 亘(東京大学)
2. 坂口周輔(愛媛大学)
3. 大橋完太郎(神戸大学)

【午後 I】13:30~15:15

### ◆後継者たち :

ヴァレリー、そしてクローデル

司会 坂巻康司

4. 森本淳生(京都大学)
5. 鳥山定嗣(京都大学)
6. 大出 敦(慶應義塾大学)

【午後 II】15:30~17:45

### ◆シュルレアリスムと現代詩

司会 坂口周輔

7. 有馬麻理亜(近畿大学)
8. 森田俊吾(奈良女子大学)
9. 國重 裕(龍谷大学)
10. 中山慎太郎(跡見学園女子大学)

### ◆総括

中畑寛之(神戸大学)

vers

ce doit être

le Septentrion aussi Nord

UNE CONSTELLATION

関西マラルメ研究会 20 周年シンポジウム

発表タイトル 一覧

12 月 9 日 (土)

<午前> 【マラルメ I : マラルメ研究の現在】

坂巻康司「現代フランスのマラルメ研究の傾向——Bohac と Ettl in を中心に——」

宮寄克裕「マラルメ『骰子一擲』における抒情主体」

<午後 I> 【同時代人たち I : ボードレールからの視点】

佐々木稔「芸術における民主主義——マラルメとボードレールにおける公衆」

小倉康寛「ボードレールに語り続けるマラルメ」

廣田大地「ボードレール、マラルメ、ボヌフォワ、バンベニスト——詩的ディスクールをめぐって——」

<午後 II> 【同時代人たち II:バンヴィル、ランボー、レミ・ド・グールモン、モーパッサンからの視点】

五味田泰「バンヴィルによるマラルメ——『フランス詩小論』に沿って」

中尾充良「マラルメからランボーへ、ランボーからマラルメへ——両者はお互いをどのように評価していたのか」

合田陽祐「象徴主義のエコシステム——レミ・ド・グールモンによるマラルメ」

足立和彦「日常の語り手：マラルメの見るモーパッサン」

12 月 10 日 (日)

<午前> 【マラルメ II:現代思想の中のマラルメ（ランシエール、バディウ、メイヤスー）】

鈴木亘「哲学者（？）における詩人（？）——マラルメとランシエール」

坂口周輔「マラルメはなぜ哲学者に好まれるのか？——アラン・バディウの場合」

大橋完太郎「数と偶然性の詩学——カンタン・メイヤスーのマラルメ読解について——」

<午後 I> 【後継者たち：ヴァレリー、そしてクローデル】

森本淳生「マラルメとヴァレリー——『エロディアード』の続篇としての『若きパルク』」

鳥山定嗣「マラルメの「声」を刻むヴァレリー」

大出敦「反復される問い マラルメとクローデルの「これは何を意味するのか」

<午後 II> 【シュルレアリスムと現代詩】

有馬麻理亜「マラルメという詩的体験：ブルトンの場合」

國重裕「マラルメとツェラン——絶対詩のゆくえ」

森田俊吾「誰がマラルメを「解毒」するのか——20 世紀フランス詩における W. ホイットマンとマラルメの運命」

中山慎太郎「イヴ・ボヌフォワが見たマラルメの詩学——ドゥーヴ、かさね、『敷居の惑わしの中で』をめぐって」